

■友の会ツアー旅行記■

二〇一六年十二月三日(土)～四日(日)

ツアー名「食を楽しむ旅第3弾」

答志島の海女小屋を訪ねる旅

難波 有為子

寝屋川市の内田雅子さんに誘われて、今回初めて宿泊ツアーに参加しました。海鮮料理は大好きなので、旅館や海女小屋でたらふくいただいた海の幸の数々は、お腹も心も十二分に満足できるものでした。また、宿のお風呂は、小さいけれども清潔感があり、ゆったり温もり、日ごろの疲れを癒してくれました。



<伊勢海老舟盛>



思い出のたっぴり
<夕食メニュー>

- ・かきフライ・煮魚
- ・かれの唐揚げ・かき、
- ・さざえの蒸し焼き
- ・さしみくはまち、たい、
- さわら、伊勢えび>
- ・三色小鉢
- <うにくらげ、えだまめ、海老>
- ・茶碗蒸し・たこ飯・
- そうめん汁・漬物
- デザート (オレンジ)



<お膳を前に乾杯！>



⇒密集した集落
「さんでのそこ」を見学



↑<海女さんの世話で昼食>

二日目の答志島ツアーは、ダジャレが楽しい「プロの海女(アマ)」浜口さんと、奈良県からお嫁入りされた自称「養殖の海女」の山本さんが、町の中を歩きながら、地元の方々の暮らしや言葉、行事や風習など案内してくださり、そのガイドブックには載っていないような内容は、とても興味深く心に残るものでした。

「あらかって〜」「さんでのそこ」「おんび」「じんじのいえ」「ええ天気やのよ」「ええ天気やなあ」など、おもしろい言葉も覚えました。中でも、「寝屋子制度」という、思春期の子どもが一定期間、よそのお宅で寝る風習が今も続いているこ

とを知り、町を上げて青少年の育ちを大切にしていることに感動しました。

私は、ここ数年、一般の旅行社の土産屋めぐりのようなツアーが嫌で、国内外ともに個人ツアーを楽しんでおりますが、JU観光のツアーは、余分な土産屋巡りも無く、参加者が交流でき、少し為になる企画が盛り込まれていたりしているので、また機会があれば参加してみたいと思います。

お世話くださった尾川さん、並びに、初参加の私を気持ちよく受け入れてくださった参加者の皆様、本当にありがとうございました。



<答志港で海女さんと記念撮影>

